

ことばの歳時記

～こんこん～

日本では、立春の前日である毎年2月3日ごろを「節分」といい、季節の変わり目に生じるといわれる邪気（鬼）を追い払うために「鬼は外、福は内」と言いながら豆まきをしたりします。

このように日本の2月は、冬から春に季節が移り変わる節目の月で、体感的にはまだまだ寒く、特に雪深い地域では、春の訪れを待ちわびている人たちも多いと思います。

さて日本には「雪やこんこ（ん）、霰やこんこ（ん）」ではじまる童謡があります。「こんこ（ん）」は、「来い来い（＝降れ降れという意味の古語）」が元になっているともいわれています。

一方「こんこん」には、「咳がこんこん出る」「扉をこんこんたたく」といった実際の音に近いものを表現する場合と、「泉がこんこんと湧く（尽きることなく水が盛んに湧き出るさま）」「こんこんと諭す（心をこめて繰り返して説くさま）」「こんこんと眠る（眠りの深いさま）」など様々な意味で使う場合があります。

词语的岁时记

～吭吭(译音)～

在日本、立春的前一天也就是每年的2月3日左右叫做「节分」，为了轰走因季节交替时而产生的邪气（鬼）、人们会一边说「鬼外边，福里面」、一边撒着豆子。

由此、日本的2月，是从冬天开始向春天季节变迁的节气的月份，感觉还是很冷，特别是积雪厚的地区，许多人一定会焦急地等待着春天的到来。

日本有以「雪下吧，雾降吧」开头的童谣。据说「吭吭(译音)」被认为是以「来吧=下吧下吧的意义的古语」而衍变来的。

另一方面「吭吭」，有「吭吭地咳嗽」「砰砰地敲门」、即表示和实际的声音相近的说法以及、还以「泉水滚滚地涌出(源源不断地频频涌出)」「谆谆告戒(语重心长地重复说明)」「昏昏沉沉地入睡(睡得沉)」等各种各样的词义而被使用。